

日本ITガバナンス協会案内

ITGI *Japan*

日本のITガバナンスを世界のトップランナーに



日本ITガバナンス協会(ITGI Japan)とは

◆設立趣旨

ISACA(本部: 米国 イリノイ州)は、早くからITガバナンスの重要性を認識しそのためのツールや考え方などを普及させるための団体として1998年にITガバナンス協会 (ITGI, IT Governance Institute) を設立しました。ITGIが開発・公表したCOBIT及び関連するツールは、グローバルなビジネス・コミュニティで認知され普及してきました。ITGI Japanは国内での活動組織としてISACA国内支部のメンバーを核に2006年に設立されました。

設立母体 ISACA国際本部/ITGI

関連団体 ISACA 東京支部,大阪支部,名古屋支部,福岡支部

◆活動方針-Mission

Global to Local

世界のITガバナンスのベスト&グッドプラクティス及び知識や研究成果を日本の企業社会へ速やかに紹介し、更にそれらに国内の環境や事情を反映させつつ普及・定着の促進・支援を行います。

Local to Global

日本のITガバナンスのベスト&グッドプラクティス及び調査研究活動の成果を世界に向けて発信します。

As a Member of Global Community

ITガバナンスのグローバルワイドな研究・調査活動への参画とそれらの活動の支援を行います。

日本ITガバナンス協会(ITGI Japan)は何をしてきたか (活動の軌跡)

◆ITガバナンス関連文書の翻訳と公開

ISACA国際本部/ITGIの開発文書を中心に20点を超し、主たるものは以下の通りです。

1. COBIT5 Frame work (2013.1月)
2. COBIT5 Enabling Process (2013.4月)
3. COBIT5 for Assurance (2015.3月)
4. IT Control Objectives for Cloud Computing (2013.10月)
5. Risk IT Framework (2011.7月)
6. DEVOPS OVERVIEW (2015.11月)
7. VAL IT Framework V.2 (2010.2月)
8. COBIT for SOX 2nd. Edition (2007.1月)

・上記文書の入手方法 → <http://itgi.jp/download.html>からダウンロード (一部、有料のものもあります)

◆ITガバナンス関連書籍の出版

1. COBIT実践ガイドブック (2008.9月 ,日経BP社)

◆カンファレンスの開催 活動方針の実践の一環として設立以来、毎年開催しています。

2006年 設立記念 テーマ: J-SOXに向けてCobiTをどう使えばよいか

2007年 テーマ: 企業目標達成のための必須道具としてのITガバナンス

2008年 テーマ: グローバルなITガバナンスの展開との整合性、IT経営からITガバナンスへ

2009年 テーマ: Cloudy or fine? It's your decision

2010年 テーマ: クラウドコンピューティングの真の価値を探る

2011年 テーマ: 今求められるITガバナンスの姿

2012年 テーマ: グローバルな価値創造に向けてのITガバナンス

2013年 テーマ: COBIT5を更に深く探る ~GRCの視点を中心に~

2014年 テーマ: ITガバナンスを深く学ぶ ~ITリスク管理の視点を交えて~

2015年 テーマ: データの視点から、これからのITガバナンスを考える

2016年10周年記念 テーマ: ~ITガバナンス これまでの10年、そしてこれから~

数少ない「海外講師の講演」イベントとして延べ20名の講師を招聘しています。2016年までの延べ参加者数は3,000名を超えています。

我々が提唱するフレームワーク「COBIT」： 今、ひとつの完成した「事業体の IT のガバナンス」 (GEIT) のためのビジネスフレームワーク

COBIT 5 が大切にしているもの (5 つの原則)

原則 1：ステークホルダーのニーズを充足

- ・ 事業体には多くのステークホルダーが関わり「価値の創出」は各々にとって異なり、時に矛盾する。
- ・ ガバナンスは異なるステークホルダー間の価値の利害を調整し意思決定することにめぐることである。
- ・ ガバナンスの仕組みは便益、資源およびリスクアセスメントの意思決定を行う際に、全ステークホルダーを考慮したものでなければならない。
- ・ 各々の意思決定では、以下の事項を問うことができ、そして問われなければならない：
 - > その便益は誰のためのものか？
 - > 誰がそのリスクを負うのか？
 - > どのような資源が必要か？
- ・ ステークホルダーのニーズは、事業体の実行可能な戦略に変換されなければならない。
- ・ COBIT 5 の目的の段階的展開は、ステークホルダーのニーズをその状況における具体的で、実行可能でそしてカスタマイズされた事業体目的、IT に関連する目的、更にイネーブラーの目的へと変換するものである。

原則 2：事業体全体の包含

- ・ COBIT 5 は、事業体全体の隅から隅まで網羅した観点から、情報とそれに関連する技術のガバナンスとマネジメントを取り扱う。
 - ・ これは COBIT 5 が：
 - 事業体の IT に関するガバナンスを事業体のガバナンスに統合する。
- すなわち COBIT 5 によって提案されている事業体の IT のためのガバナンスシステムは、いかなるガバナンスシステムともシームレスに統合される。何故ならば、COBIT 5 はガバナンスに関する最新の観点と整合をさせているからである。
- その事業体の中の全ての機能とプロセスをカバーする；**COBIT 5 は「IT 機能」だけに焦点を当てているのではなく情報とそれに関する技術を、事業体の全員が資産として扱う必要のある他のいかなるものと同様の資産として扱っているからである。**

原則 3：一つに統合されたフレームワークの適用

- ・ COBIT 5 は、事業体で利用される最新の関連する他の標準やフレームワークと整合させている：
 - 事業体： COSO, COSO ERM, ISO 9000, ISO 31000
 - IT 関連： ISO 38500, ITIL, ISO27000 シリーズ, TOGAF, PMBOK / PRINCE2, CMMI 等
- ・ これによって事業体は、COBIT 5 をガバナンスとマネジメントのフレームワークを統合する何よりも重要なものとして利用することが可能になる。

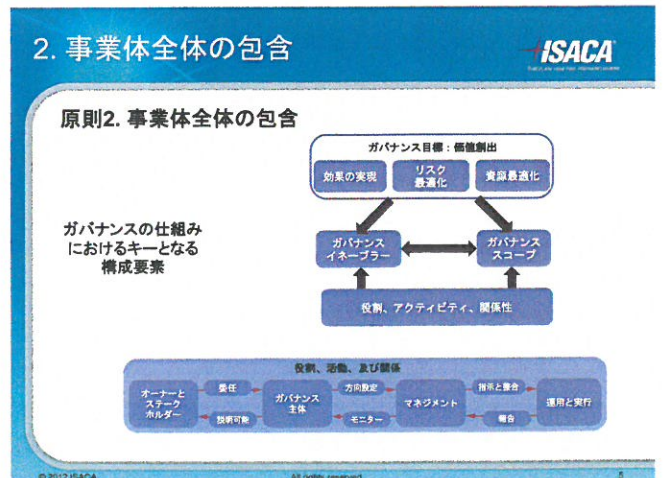
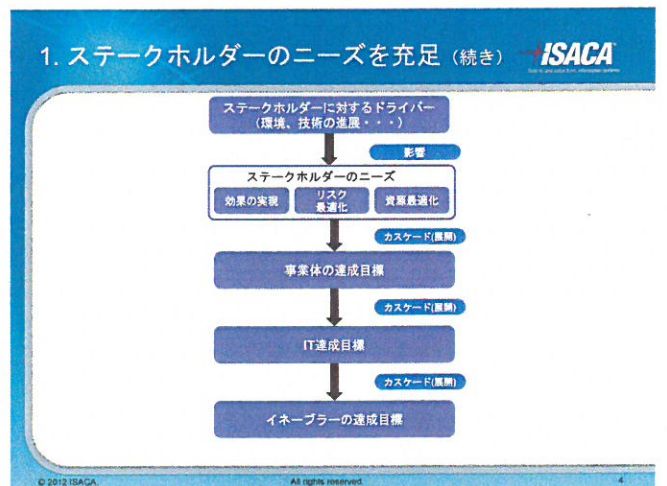
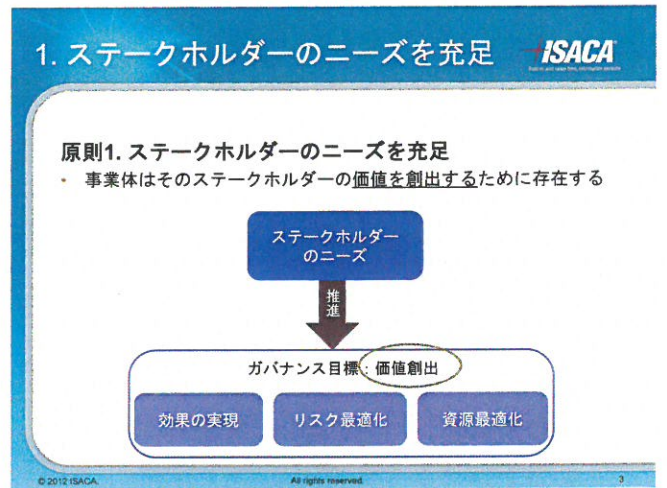
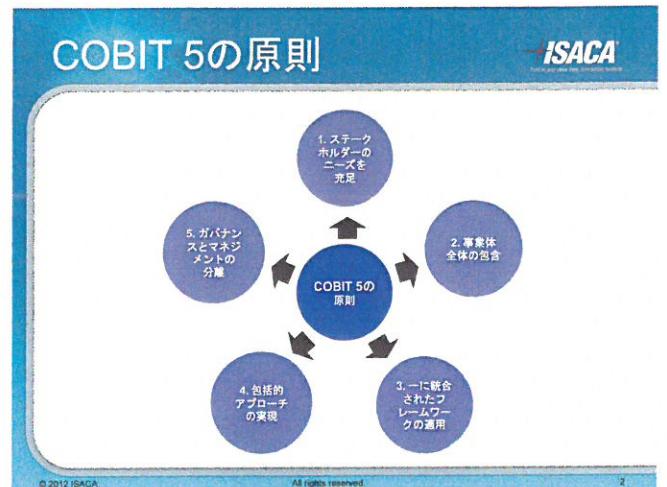
原則 4：包括的アプローチの実現

7つのイネーブラーに着目

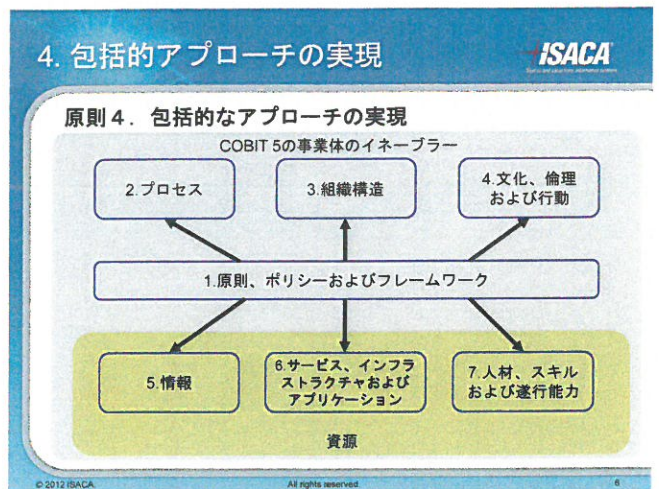
COBIT 5 のイネーブラーは：

- ・ COBIT 5 においては、事業体の IT におけるガバナンスとマネジメントに対して何かが作用するかどうかについて、個々にかつ集合的に影響を与える要因である。
- ・ 目的の段階的展開で実現を目指す。すなわち、高いレベルの IT 関連の目的で、異なるイネーブラーが達成すべきことが定義される。
- ・ COBIT 5 のフレームワークを7つのカテゴリーで記述している。

1. プロセス—文書化され組織化されたある目標を達成し、アウトプットの集合を生み出すための実践と活動の集合であり、これらは IT 関連目的全体の達成によって支えられている。



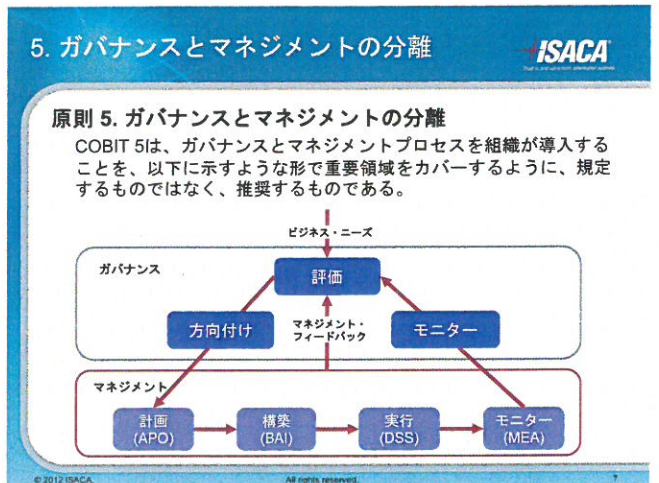
2. 組織構造—組織における重要な意思決定の実体（エンティティ）である。
3. 文化、倫理及び行動—各個人のものであり、組織のものである；非常に多くの場合、ガバナンスとマネジメントの活動の成功要因としては過小評価されている。
4. プリンシプル、ポリシー及びフレームワーク—要求される行動を日々のマネジメントの実践的なガイダンスに変換する手段である。
5. 情報—いかなる組織においても全体に深く浸透しているものである；すなわち、その事業体で生み出され使用されている全情報が取り扱われる。情報はその組織の運営を維持し、うまくガバナンスされるために必要とされる。しかし運用レベルでは非常に多くの場合、情報が事業体そのものの重要生産物である。
6. サービス、基盤及びアプリケーション—基盤、技術及びアプリケーションが包括されて、情報技術処理とサービスが事業体に提供される。
7. 人、スキル及び専門能力—人とリンクし、全ての活動がうまく完了するため、ただし意思決定を行うため、そして修正行動を行うために必要とされる。



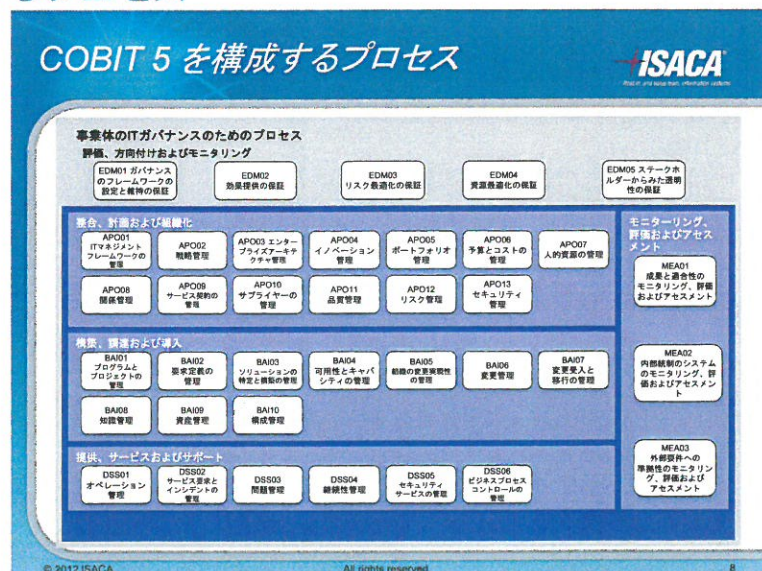
原則 5：ガバナンスとマネジメントの分離

COBIT 5 のフレームワークではガバナンスとマネジメントの間に明確な区別を行っている。

- ガバナンスは ステークホルダーのニーズ、状況及び選択行為を評価する (E) こと；優先順位付けと意思決定によって方向 (D) を定めること；成果、コンプライアンス及び同意された方向と目標に対する進捗をモニタリング (M) することによって事業体の目標が達成されることを保証するものである。(EDM)
- マネジメントは、ガバナンス組織体によって設定されたその事業体の目標を達成する方向に沿った活動を計画 (P)、構築 (B)、実行 (R) そしてモニタリング (M) を行うものである。(PBRM)
- この2つの分野は：
 - 異なるタイプの活動を包含する
 - 異なる組織構造を必要とする
 - 異なる目的の要求を満たす
- ガバナンス—ほとんどの事業体において、ガバナンスは取締役会の責任であり、その議長のリーダーシップのもとにある。
- マネジメント—ほとんどの事業体においてマネジメントは上級管理職の責任であり、CEO のリーダーシップのもとにある。



COBIT 5 を構成するプロセス



- COBIT 5 プロセス参照モデルは、事業体における IT 関連の実践と活動を2つの主要領域に分割するガバナンスとマネジメントである。マネジメントは更に複数プロセスのドメインに分割される：
- ガバナンスドメインは5つのガバナンスプロセスで構成される；各プロセスの中に、評価、方向の指示、モニタリング (EDM) の実践が定義されている。
- 4つのマネジメントドメインは、計画、構築、実行及びモニター (PBRM) の責任領域に一致している。

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3丁目12-4 白鷺ビル4F イデア国際会計事務所内

お問い合わせ office-itgi@itgi.jp

<http://www.itgi.jp>